



## 子どもの学びと心を支えるICT

近年、学校教育を取り巻く環境は大きく変化しています。文部科学省では、これからの社会を生きる子どもたちに必要な力として、知識や技能だけでなく、自ら考え、他者と関わりながら学び続ける力を育むことを重視しています。背景には、「学ぶ意義を見いだしにくい」「主体的に学びに向かえない」と感じる子どもが増えていることや、言語・文化的な背景が異なる子ども、学習や人との関わり方において個別の支援を必要とする子どもなど、子どもたちの状況がますます多様になっている現状があります。こうした多様な子どもたちを包み込み、すべての子どもが安心して学べる学校づくりが求められています。そこで、文部科学省は、子どもが自ら考え、友だちと対話しながら学ぶ「主体的・対話的で深い学び」を進めるための手段として、ICTの活用を位置付けています。ICTは、「調べたいことを自分で調べる」「考えを分かりやすくまとめ、伝える」「友だちの考えに触れ、学びを深める」といったことに有効なツールであり、一人一人のペースや興味に応じた学びを支える道具です。重要なのは、ICTを使うこと自体が目的ではなく、学びをよりよくするための手段であるという点です。

こうした国の考えを受け、大阪市では、学習用端末を活用しながら、一人一人の興味や理解のペースに応じた学びや、不登校の子どもや学び方に困り感のある子どもなど、多様な子どもたちを包み込む教育を進めています。本校でも、大阪市の方針を踏まえ、授業の中で学習用端末を活用して、「自分で考える時間」「友だちと意見を交流する時間」「学んだことを振り返る時間」を大切に学習に取り組んでいます。

また、本校でも、学習用端末の更新に伴い端末の持ち帰りを開始しました。これは、今後、学校での学びを家庭でもつなげ、授業の振り返りや調べ学習、自分のペースでの学習などに活用することをねらいとしています。学年や発達段階に応じて、活用の内容や時間は異なります。低学年では無理のない範囲で、高学年になるにつれて少しずつ活用の幅を広げていきます。

さらに、学習面だけでなく、子どもたち一人一人の心の状態を大切にすることも、ICT活用の重要な目的の1つとしています。その取組の1つが、「心の天気」の活用です。「心の天気」とは、子どもがその日の気持ちを「はれ」「くもり」「あめ」「かみなり」で表し、学習者用端末を使って簡単に伝える仕組みです。言葉にするのが難しい気持ちも、無理なく表すことができ、教員が子どもの小さな変化に気づきやすくなります。文部科学省や大阪市が大切にしている「ウェルビーイング（心身の幸せ）」の視点を、ICTを活用して学校生活の中で支えていく取組として、今後も取り組んでいます。

(※裏面に続く)





(※表面より)

一方で、便利さだけでなく、情報の扱い方や使い過ぎへの配慮も重要です。そのため、学校では、発達段階に応じた情報モラルやデジタルリテラシーの指導を行い、安全で正しい使い方を身に付けられるよう取り組んでいます。ご家庭におかれましても、「どんなことに使っているのか」「今日はどんな学習をしたのか」と声をかけていただくことで、子どもたちは安心して端末を活用することができます。



ICTは、子どもたちの可能性を広げる大切な道具の一つです。しかし、何より大切なのは、子どもたちが学ぶ楽しさを感じ、安心して学校生活を送ることです。本校では、文部科学省・大阪市の方針を踏まえ、家庭と連携しながら、子どもたちが安心して学び、成長できる環境づくりを進めてまいります。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## のだっこ Diary

★子どもたちの学校生活のようすは、本校ホームページでも紹介しています。  
随時更新していますので、ぜひご覧ください。

### 【漫才ワークショップ（5年生）】12月11日（木）

漫才を通じて、コミュニケーション能力・伝え合う力を高めることや、「話し方」「伝え方」を楽しみながら学ぶことで、表現力・言語能力を養うことをねらいとして、漫才ワークショップを行いました。今日は、テレビ・舞台上で活躍中の芸人「アンビシャス」のお2人や放送作家・構成作家の方が講師となって、子どもたちが漫才の台本をつくって、練習し、実際にみんなの前で披露しました。子どもたちの漫才は、芸人の方や放送作家の方に1組1組講評していただきました。最後はアンビシャスさんによるプロの漫才や担任3人による漫才が披露されるサプライズもあり、とても盛り上がりました。子どもたちにとって、笑いの文化に親しむを持つことができる、貴重な経験になりました。



※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。